

まちのアルバム

琵琶湖の生き物たちの魅力を伝える

大津市の中学3年生・黒川琉伊さんくろかわ るいによる「おさかな教室」が開催され、約30人が参加しました。

参加者の疑問に答えながら、琵琶湖に住む魚たちの特徴、見分け方、味などを分かりやすく解説。参加者たちは「初めて知ることがたくさんあり楽しかった。」と話してくれました。

また、本年7月に黒川さんが出版した絵本「はじめてのびわこの魚」の原画展も開催。

四季折々に変化する魚の1番美しいと感じる瞬間を描写したという魚たちの絵は、今にも泳ぎだしそうでした。

黒川さんは「ひとりでも多くの子どもたちに、生き物を好きになってもらえるように、そして自分自身がもっと生き物とかかわれるように努力を続けていきたい。」と今後の取り組みへの意欲を語ってくれました。

▼8月26日 野洲図書館本館



▲自作の魚のイラストを使い、特徴などを解説する黒川さん



歴史の小窓

—学芸員のメッセージ—

(217)

歴史民俗博物館 ☎587-4410、Fax587-4413

益須寺

—日本書紀に書かれた古代寺院—

滋賀県内での寺院の建立は飛鳥時代こんりゅうにさかのぼり奈良時代が始まるころには80カ所程あったと考えられています。全国の寺院数は約500カ所以上あったと考えられていることから、全国的にみても多くの寺院が滋賀県内に造営されていたことになります。

残念ながら、当時の寺院に関することは、同時代の史料にあまり書かれておらず、実態はよくわかっていません。

そのような中、益須寺は、『日本書紀』の持統天皇8年(694年)3月に「近江国益須郡都賀山に湧いていた水には病を治す効果があり、多くの病人が益須寺に宿泊して病を治していた。それを知った持統天皇は益須寺に褒美を授けた。」とその名が書かれています。

益須寺は守山市吉身周辺に位置していたと考えられ、周辺の発掘調査では多くの古瓦が出土しました。

博物館では、今月8日から野洲・守山の神と仏をテーマにした、秋期企画展を開催します。この益須寺と関連する遺物も展示していますので、ぜひご来館ください。

(博物館学芸員 鈴木 茂)



益須寺遺跡出土瓦(所蔵・写真提供:守山市教育委員会)

■滋賀県立琵琶湖文化館・野洲市歴史民俗博物館・守山市地域連携企画展「近江湖南に華開く宗教文化 —野洲・守山の神と仏—」

10月8日(土)~11月27日(日)

※会期中の休館日:月曜日(10月10日は除く)、10月11日(火)、11月4日(金)・24日(木)

※市民は入館無料

(運転免許証やげんきカードなどをご提示ください。)

※市ホームページ等で事前に開館状況をご確認の上、ご来館ください。